

## 会社間設計技術交流による、さらなる設計スキルの底上げ

### 第5回 アクセスデザイン・コンテストの実施結果について

西日本事務所

#### ◎はじめに

情報通信エンジニアリング協会は、11月5日（水）NTT西日本研修センターPRISMにおいて、第5回アクセスデザイン・コンテストを開催しました。

本コンテストは、サービス総合工事規模の工事を題材とした、設計・算定の競技会であり、設計者および会社全体の設計力・提案力のさらなる向上、安全性・効率性を考慮した設計の重要性の再確認をするとともに、全国の通建会社間の情報共有を目的として平成22年から競技会形式で実施しています。

ここでは、今年で節目となる第5回目の開催となった同コンテストの開催模様と実施結果を紹介します。

#### ◎実施概要

第5回アクセスデザイン・コンテストは18社・44名（22チーム）による競技であり、各通建会社も自社内での選考競技会の開催や勉強会を

実施して本大会に臨むなど、開催当初から比較するとスキルの向上が著しく、大会事務局への質問内容からも取組みの強化がうかがえました。

第5回大会は、前回大会から導入した一問一答のクイズ形式による競技を算定競技、設計プレゼンテーションで実施し、応援者にも課題と各社の回答および正解状況を視える化したコンテスト運営としました。

開会式では、主催者を代表して高江洲技術・品質委員長が挨拶に立ち（写真1）、NTT東西会社からはエンジニアリング部門長様をはじめ多数のご臨席を賜り、代表して西日本電信電話株の土井内エンジニアリング部門長様（写真2）、東日本電信電話株の松浦エンジニアリング部門長様（写真3）にご挨拶をいただきました。

各通建会社およびNTTグループ会社からの来場者は180名を超え、スタッフを含め総勢約280名と過去最大であった前回は上回る規模となりました。

課題作成や審査の実施に際しては、NTTフィールドテクノ様およびNTT東日本ー南関東様による多大な技術指導・支援をいただき、東西の設計の違いなどによる難易度の差が発生しない課題内容とし、審査項目の設定も最近の事故発生状況を参考とした誤接続の防止、傾斜地での作業等施工者への安全配慮をどのように実施したかなどを盛り込み、設計からの安全確保に向けた競技内容とすることができました。

アクセスデザイン・コンテストは競技の実施、設計プレゼンテーション、審査および表彰まで1日で実施しますが、準備段階での東西審査員の課題確認やディスカッションを連日実施し、目線合わせの強化により実現できました。

多大な御支援をいただいた関係者の皆様に改めて心から感謝申し上げます（図1）。



写真1 高江洲委員長による  
主催者代表挨拶



写真2 NTT西日本  
土井内エンジニアリング部門長様  
による来賓挨拶



写真3 NTT東日本  
松浦エンジニアリング部門長様  
による来賓挨拶

	競技会場	応援会場
8:30～	<b>受付</b>	
9:00～	<b>開会式</b> ○主催者、御来賓挨拶 ○スケジュール説明	
9:30～	<b>実施内容説明（選手説明）</b>	<b>設計競技課題の解説</b> ○今年度課題の概要と重点ポイント等の説明
10:00～	<b>設計競技</b> ○線路図、各種折衝標準図等の情報から 実施設計図面を作成	
12:00～	<b>昼食</b>	
13:00～	<b>算定競技</b> ○一問一答の選択方式にて、適切な工程適用内容を選択	
14:30～	<b>設計競技のプレゼンテーション</b> ○設計図の一部について一問一答の選択方式にて、設計を実施した内容を選択。 模範的な回答者から設計の考え方について解説	
16:30～	<b>閉会式</b> ○全体講評及び閉会挨拶	

図1 コンテストスケジュール



図2 設計競技の架空設備図

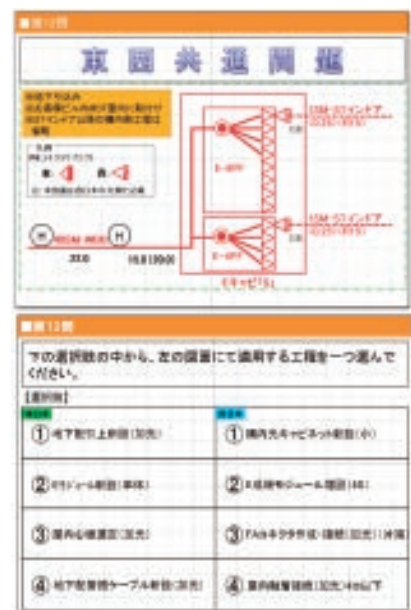


図3 算定課題の一例



写真4 設計競技模様



写真5 算定競技模様

## ◎ 競技の概要

### (1) 設計競技

設計競技はサービス総合工事規模の各種工事を題材に作成しており、おおむね2時間程度で設計が完了できるボリュームとしています。

今回は例年よりも工事規模の縮小を図り、通常業務で実施する工程調書作成までを設計競技の範囲と位置づけ、設計から工程調書作成までを競技とする課題設定としました。

課題のポイントとしては、①管理CP、損傷CP（共架柱）の建替え、②上空通過ケーブル解消による効率的で安全な設計提案の実施、③宅地開発地への開通、という3点を軸に、競技者は共架柱の構造設計、架空設備のルート変更や不要設備の撤去等とさまざまな提案が可能な内容とし、設計図面の作成に取り組んでいただきました。

工事規模は縮小しましたが、工程調書作成までの課題について、各競技者は時間をフルに活用して真剣に取り組みました（図2・写真4）。

### (2) 算定競技

算定競技は、一問一答のクイズ形式により実施し、競技者は机上のモニターに映し出された簡単な設備図

と算定問題について手元のボタンにて4択式で、西日本エリア問題4問、東日本エリア問題4問、東西共通問題6問の1チーム10問に取り組みいただきました。

各社の回答状況、課題解説、および正解状況がその場でスクリーンに映し出され、競技者にとっては、大変プレッシャーのかかる競技であり、応援者にとっては、自社の競技者へ熱い声援を送る競技となりました（図3・写真5）。

## ◎ 設計プレゼンテーション

設計プレゼンテーションは、競技者が作成した図面を元に設計の考え方などについて情報共有を図ることを目的に、算定競技同様に一問一答のクイズ形式にて実施しました。

競技者は、机上にあるモニターに映された課題図面の一部を見ながら、当該部分の設計について4択方式で自分が実施した設計内容を選択します。

その後、競技者による設計ポイントについての簡単なプレゼンテーションにより、考え方などの共有を行い、課題を作成したスタッフより簡単な解説、各社の回答状況および模範回答状況をスクリーンに映し出



写真6 設計プレゼンテーション模様



写真7 高江洲委員長と受賞者

表 第5回アクセスデザイン・コンテスト実施結果

順位	会社名		競技者名	
優勝	西	北陸電話工事(株)	谷口 成光	垣川 貴尋
準優勝	西	(株)協和エクシオ	亀田 徹	和泉 有祐
3位	東	(株)TTK	尾形 卓哉	小野寺 一祥
4位	東	(株)協和エクシオ	中澤 和也	亀岡 雅之
5位	東	(株)ミライト・テクノロジーズ	山本 修	平岡 桂一郎
6位	西	(株)ソルコム	萩原 和博	岩崎 博史
7位	西	シーキューブ(株)	深沢 政則	澤田 知志
8位	西	日本電通(株)	池口 祐治	宇都宮 正宜
特別賞 (的確設計)	西	シーキューブ(株)	深沢 政則	澤田 知志



図4 設計プレゼンテーションの問題一例

しました(写真6)。

今回は、準備した選択回答以外の設備対応を実施したチームが多く、1つの課題に多くの対応方法のプレゼンテーションが行われ、設計に対する考え方の幅広さを競技者だけでなく、課題を作成したスタッフも改めて認識することができました(図4)。

## ◎審査・表彰

審査は、午前中に競技者が作成した図面などから、各社が要求項目について、どのような設備対応を実施しているかを読み取り、安全、効率、的確、提案等の基準で審査し、要求項目以外の優良な対応をしている設計にはポイントを加算する方式で実

施しました。

年々競技者の作成した図面の完成度が向上しており、規定の項目以外に加算する項目が増加しており、審査員は長時間にわたり、競技者の作成した図面と真剣に向き合い審査しました。

全競技者の設計および算定を審査、集計し、表彰式で審査結果が優秀な上位8社を表彰し、上位3社にはメダルが高江洲委員長より贈呈されました。また、種類の多い架空クロージャの適用が的確であった競技者には特別賞を授与しました(写真7・表)。

意見交換会場では、競技者、応援者とも全国の会社間の交流が図れ、盛況のうちに閉幕となりました。

## ◎最後に

設計は、地域状況・設備状況、お客様要望等でさまざまな対応方法があり、正解は1つではありません。

受賞結果に左右されることなく、本コンテストで得たスキルや全国通建会社からの情報等について自社内で水平展開し、スキルの底上げをすることが最大の目的となります。

今回も競技者が検討した設計について「フィードバックレポート」と「優良設計事例集」として作成・配布を行いますので、質の高い電気通信サービスの提供と事故撲滅を目指し、全社一丸となり設計スキルの向上に活用いただければ幸いです。